

## 印西地区環境整備事業組合

技術班 御中

検討委員 津島 孝彦

### 第3回基本計画検討委員会検討事項についての意見・提案

#### 資料1 将来人口について

資料1では、市町の推計結果を用いたケースと相関係数を用いたトレンド式(開発人口を加算する)によるケースの2通りの検討結果が示されているが

①前者の方が構成市町数値との整合性が高く、後者の開発人口を上乗せするケースでは過去3回全ての基本計画で予測誤差(実績値との乖離)がより拡大していることからこの手法自体に疑問を感じる。以上の理由から基本計画の人口予測値には前者を(組合案の1と2)を採用すべきと考える。

②栄町の人口予測について、第4次総合計画の推計人口か目標人口のどちらにするかの選択は、栄町選出委員各位の意見を尊重すべきと考える。

但し、目標人口を採用する場合には当然規模の拡大に伴う設備費の増加問題が生じるために、その負担割合について事務局の考えを事前に説明して欲しい。

#### 資料2 印西地区の概要について・・・省略

#### 資料3 ごみ排出量の予測について

資料3ではH20～24までの過去5年間の実績値を用いたトレンド推計のみであるが、人口推計のケース同様に10年間の実績値によるトレンド推計も合わせて行い、両者の比較検討が必要と考える。

#### 資料4 ごみ排出量の目標値について

ごみを減量するのは各構成市町の市民であるが、それを推進するのは各構成市町である。このため各構成市町が、減量推進審議会等により策定した個別の目標数値をこの基本計画のごみ減量目標値として採用すべきである。

最近稼働した成田・富里両市の「成田・富里いずみ清掃工場」や三鷹・調布両市

の「クリーンプラザふじみ」でも、構成市町が策定したごみ排出量目標値を基本計画目標値として採用し、実績からのトレンド値や国、県などの減量目標値は参考値として併記・利用されているに過ぎない。

以上のことから、ごみ排出量目標値の設定について以下の手順を提案する。

①まず、減量目標計画値（P2の表1）について、印西・白井両市では目標数値が策定されておりそれを使う。数値設定のない年度についてはトレンド式でH40年度までの予測を行う。目標計画が未定の栄町については、H26年度の家系系（資源物を除く）の目標計画を517g/人・日とするとの意見があるので、これを確認した上でトレンド式で40年度までの予測を行うことを提案する。

②P3の排出原単位の目標設定値について根拠の説明が少なく理解し難い。H25～31年までは、直前5年間の直線式予測となっているが、10年間の数値予測も加えて比較検討して欲しい。又H32年度の間目標値（H12年比マイナス25%）の根拠が判らないので説明して欲しい。（他市町事例などのデータ等）

③P6のごみ排出原単位の市町統一目標について、H21年版の基本計画同様に今回もこの素案が提示されているが、排出事情は各構成市町毎に異なることを考えればこのような統一目標値の設定に疑問を感じる。もし構成市町の共通目標ということであれば、各市町の個別目標値の加重平均値を算出しそれを使用した方がよい。

前回策定の統一目標値について、既にこの値を大きく上回る減量目標を設定した市もあれば、未だに減量目標値さえ確定していない町があることを見ても、前回の統一目標値の設定に意味があるとは思えない。逆に不用意に数値設定すると、構成市町の今後の減量目標設定の支障になりかねない恐れさえある。

④ ②項の計画目標値は、あくまで①の構成市町からの値を用いたトレンド予測値の参考値として考えるべきものであり、この数値自体を基本計画値に設定するのは、構成市町の審議会等で策定された目標を否定することにも繋がるので反対である。

以上